

農学部4号館の 想い出



農学部4号館 「東京大学卒業アルバム1970年(昭和45年)／東京大学アルバム編集会編」より

農

学部4号館は昭和42年に建立され、平成6年まで28年間、主として農業工学科がこれを使用していました。私が農学部3年生に進級した昭和44年ごろの4号館

は、コンクリートの色も眩しい白さで、他の建物に比べてモダンな感じがしました。もつとも、全窓ストライキ、東大入試中止、安田講堂攻防戦、といった騒然とした雰囲気の中では、4号館の輝きを愛でる人はほとんどいませんでした。

4号館の屋上は、広くてなかなか使い心地が良く、夜空を眺めるもよし、皆でバーベキューパーティーをやるもよしで、入れ替わり立ち替わり、屋上に人が出入りしたものです。地下室にあった機械工作室の旋盤・ボール盤・溶接機などを懐かしむ卒業生も少なくありません。

さて、築後21年目の年に教官として東京大学に戻った私は、あの4号館のコンクリートがすすけており、外壁のタイルが欠け落ち、強固なはずの壁や柱には1cm以上の幅を持った亀裂が走っているのを見て驚愕しました。どうやら、昭和40年代は粗製乱造の建築ラッシュ時代と言われていたようで、4号館も長持ちする建築物ではなかったのです。当時、農学部の評議員でおられた田淵俊雄教授と農学部執行部は、就任直後の吉川弘之総長や文部省政務次官を实地検分に招き、4号館がいかに危険な状態かを力説。吉川総長は、危険回避のため直ちに4号館を取り壊して代替ビルを建てるため、大学特別枠予算をこれにあてるよう指示しました。こうして、農業工学科(現生物・環境工学専攻)は7号館A棟に移転し、4号館跡地には7号館B棟およびフードサイエンス棟が建立されました。思えば、28歳という4号館の寿命を予想する人は、当時いませんでした。

時流に流されず、盤石なものを「築く」こと、窓から見えている工事中の学内建築物や東京スカイツリーは、是非そうあってほしいもの、と期待しながら遠くを眺めている今日この頃です。

生物・環境工学専攻 環境地水学研究室

みやまき 毅 教授